

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. 43

November, 2015

関西大学ニュースレター

発行日：2015年(平成27年)11月25日
発行：関西大学 総合企画室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
<http://www.kansai-u.ac.jp/>

この伝統を、超える未来を。



■対談・ユニークな発想力で新たな産学官連携研究を創生

世界を変える、 イノベーションを

大坪文雄 バナニックス株式会社特別顧問 / 池内啓三 理事長

■リーダーズ・ナウー5
在学生— 文学部 4年次生 清水 希容 さん
卒業生— 松竹新喜劇 俳優 藤山 扇治郎 さん

■研究最前線
情報法コンプライアンスと内部統制の研究
「組織と経営」のあり方を、情報法・企業法の視点から探求—7
社会安全学部 — 高野 一彦 教授

生体信号の非接触センシング技術の研究
心臓の活動や呼吸を非接触で測る —9
システム理工学部 — 鈴木 哲 准教授

■トピックス【学内情報】—11
国際シンポジウム「イスラムと国際社会」を開催
—関大で深めるイスラム・アラブ諸国への正しい理解—

人間健康研究科博士課程後期課程を開設
健康・スポーツ研究を通じて、人間社会の健康と福祉に寄与 ほか

■社会貢献・連携事業 / 地域連携 —13
関西大学日本・EU 研究センター設立10周年
第5回 Japan Week を開催

一般財団法人林原美術館と連携協定を締結
超高精細デジタル化を用い、芸術資料の鑑賞機会を創生 ほか

■関大ニュース —15
関西大学北陽高等学校校友の又吉直樹さんが小説「火花」で芥川賞受賞! ほか

FUMIC OTSUBO

■対談



◆梅田と千里山をつなぎ、起業の志を支援する

池内 並行して梅田キャンパスも開設します。都心にも人が交わる本学の拠点ができることを強みにしたいと考えています。

大坪 あれだけの人が集まる梅田という立地には、大いなるチャンスが内在していると思います。千里山のイノベーション創生センターと梅田キャンパス、それぞれの場所での交流から生まれたものを共有し、両方で発展させ、ひいては関西大学全体の将来の発展に繋げていただきたい。そのために、イノベーション創生センターと梅田キャンパスのネットワーク化はシナジー効果を生むために欠かせないでしょう。

池内 それをどのように実現するか、1年かけて細部にわたり考えていかなければならないと思っています。

大坪 関西大学がイノベーション創生センターを設立するからといって、簡単に企業が参入するかどうかという、それ程甘いものではありません。例えば、パナソニックでも日本の大学とだけコラボレーションをしているわけではありません。今や世界中の大学を対象に連携が広がっています。その中から選ばれることは生易しいものではないと思います。

関西大学がより多くの企業との連携を拡大するためには、中小企業にも目を向ける必要があると思います。幸いにも大阪には多くの中小事業者が活躍されている。そこに、関西大学のイノベーション創生センターのメリットを広く伝えていく必要があるのではないのでしょうか。

昨今、日本全体の企業数は減少しています。国の経済力を維持向上させるためには、やはり会社の数を増やさなければいけません。そういう意味でイノベーション創生センターには、起業を支援し、ベンチャー企業のスピーディな展開をサポートするという視点も必要だろうと思います。

池内 イノベーション創生センターでは、インキュベーション機能はもちろん、ベンチャー促進機能も充実させる計画です。さらに梅田キャンパスにも、起業をめざす人を対象とした学びの場としての機能も持たせたいと考えています。

梅田キャンパスを開設するにあたって売却した天六キャンパスでは、90年の歴史の中で多くの学生が昼間働きながら、夜間勉学に励んでいました。それだけ目的を持って勉強した学生の中からは、自分で事業を起こした人がたくさんいます。このような天六キャンパスの魂を梅田キャンパスでは引き継ぎたい。志のある起業家を輩出できたらと思っています。また、最近では在学中から起

ユニークな発想力で新たな産学官連携研究を創生

世界を変える、イノベーションを

関西大学イノベーション創生センター、誕生へ

大坪 文雄
・パナソニック株式会社 特別顧問

池内 啓三
理事長

2016年11月の関西大学創立130周年に向けて、記念事業も着々と進行中。中でも、産学官連携の共同研究拠点「関西大学イノベーション創生センター」の設立は、産業界からも大きな注目を集めている。同センターでは企業の研究部門等を誘致し、文系・理系の枠組みを超え、教員・学生・企業人の活発な対話・交流の中から革新的なイノベーションの創生を目指す。まさに、「学の実化」を具現化し、130周年のその先へと進む関西大学の道を切り拓く新拠点だ。今回は工学部卒業生でパナソニック特別顧問の大坪文雄氏を招き、同センターの可能性を中心に池内啓三理事長と意見交換を行った。

◆文理融合でイノベーションを生み出す

池内 大学創立130周年まで、いよいよあと1年となりました。千里山キャンパスの新たなアクセス・エリアの創出、人文・自然・社会科学系の枠組みを超えた産学官連携の共同研究拠点「イノベーション創生センター」と、「なにわ大阪研究センター」の設立、大阪市北区鶴野町における「梅田キャンパス」の開設、グローバル人材の育成をめざす「グローバルフロンティアプログラム(KUGF)」の開発・提供、「関西大学『学縁』給付奨学金制度」の構築、地域住民



関西大学イノベーション創生センター (完成イメージ)

■対談



大坪 文雄 (おおつぼ ふみお)
1945年大阪府生まれ。71年関西大学大学院工学研究科機械工学専攻修了。同年、松下電器産業株式会社入社。95年オーディオ事業部長、98年取締役、2000年常務取締役、03年代表取締役専務を歴任し、06年代表取締役社長に就任。12年パナソニック株式会社代表取締役会長就任。13年特別顧問に就任、現在に至る。

大企業、中小企業、それぞれ抱えている問題は違います。異なる課題にうまく対応して、企業との施設の共用が進めば、バラエティーに富んだイノベーションが可能になると思います。

業する学生も結構います。そういった学生に対してもチャンスを与えたいですね。

大坪 学生の起業はアメリカでは、もうすっかり当たり前の話で、マイクロソフトのビル・ゲイツ氏にしろ、フェイスブックのマーク・ザッカーバーグ氏もハーバード大学を中退して、会社を起しています。最近では中国でも、そういった例が目立ってきました。やはり、日本においても、学生による起業が活発であることは重要です。起業の志を持った学生が関西大学にたくさんいるのは、頼もしいことだと思います。

学生に起業意欲があっても、学生同士だけで話していると、なかなか踏み切れないところもあるかもしれません。それが、社会人や異なる分野の人と出会うことで、背中をトンと押してもらえ、可能性もあります。イノベーション創生センター、梅田キャンパスを学生達の情報収集・情報交換の場として利用してもらえようになれば、関西大学からの起業家がさらに増えるかもしれません。

◆若き力よ、恐れず、可能性の地へ飛び込め

池内 大坪さんには今年、本学学生2名を国際インターンシップとして、シンガポール現地法人への受け入れの橋渡しをしていただきましたね。

大坪 参加した学生には、アジア新興国市場の実態、アジアでのビジネスモデルを学んでもらいました。他国での就業体験はもちろん、その国の文化を学ぶことは、非常に貴重な経験だと感じています。希望を言えば、シンガポールのように環境的に恵まれた国だけではなく、これから間違いなく発展する国に、インターンシップで飛び込む学生が増えると、本物のグローバル化が進むのではないのでしょうか。

池内 日本を離れ、なぜわざわざ苦労しに行く必要があるのかと思う学生が多いと感じています。日本中が豊かさを求めていた時代とは違い、子どもの頃から平和で豊かさに囲まれていた彼らに対して、不便な環境に出向こうという意欲をかき立てるにはどうしたらいいのでしょうか。

大坪 これから発展する国は、今は貧しいかもしれない。しかし、日本だって学生達の祖父母の時代は、今のような便利な家電製品などを知らない暮らしだった。多くの発展途上国がやがて、今の日本みたいな豊かな国になるのは間違いのないことです。これから発展する地域に自分の可能性を求める気概は、大いに意味があるということ認識すべきだと思います。

歴史に学べば、豊かさを手に入れた国の多くは衰退していきま。その理由はやはり、若者に挑戦心が無くなるからではないでしょうか。日本も若い人達が心地よい中に閉じこもっている、間違いなく衰退の一途をたどることになるでしょう。そうでなくても、日本は高齢者が増えているわけですから、若い人の相応な活力が必要になると思われます。

◆長寿企業・大学は、理念を尊び、強みを磨く

大坪 130年以上の歴史を持つ大学は、そう多くはないですね。企業の話をしめすと、100年以上の歴史を持つ長寿企業は、2014

年末で日本には2万7300社余りあると言われています。これは、世界の長寿企業の約半数になるそうです。島国であることも幸いしたとは思いますが、日本は長寿企業が世界的に抜きん出て多い国なのです。

では、100年200年と続く長寿企業は、どのような経営をしてきた会社なのか。多くの調査・分析結果がありますが、私が一番納得できたのは、創業の理念を大事に守っている会社であることです。それから、自社の強みをよく考え、その強みを着実に磨き上げてきた企業であることが共通しています。

大学に当てはめると、建学の精神を大事にしていること、大学としての強みを深く考え、磨き上げ、社会の環境変化に対応していく大学が長寿大学になるのだと思います。関西大学も建学の精神と大学の強みを自覚し、教職員、学生、卒業生、保護者が一つになって取り組んできたことで、130年という長い歴史を紡ぐことができたのだと思います。この歴史は非常に大きな財産です。ただそれに安住してしまうと、衰退のスピードも速いでしょう。これからも、建学の精神、大学としての強みを大切に、時代の変化に対応していくことを継続し、150年200年と続く歴史ある大学に発展していただきたい。我々も関西大学の卒業生として、少しでも社会に評価していただけるよう意識して頑張らなければならないと思います。

◆破壊と積み上げ、2種のイノベーション

大坪 イノベーションには2つのタイプがあると産業界では理解されています。1つは、技術的には可能であっても、今まで世の中に存在しなかったものが登場し、世の中をガラッと変えてしまう破壊的イノベーション。例えば、スマホなどがそうです。しかし、それが毎年出てくるかという点、なかなかそうはいかない。ですから、実際の企業経営では、今年リリースしたこの製品よりも、来年はもっとコンパクトにして、こんな機能を追加できるようにしようというイノベーションを繰り返していく。これを、積み上げ型イノベーションと私は勝手に命名しています。

1年ごとの進化は小さくても、10年後に振り返って見ると、かなり大きな変化が起きているはず。イノベーション創生センターも、世の中をあっと言わせる破壊的イノベーションは知の拠点としてももちろん狙わなければならないと思いますが、同時に企業が抱える問題を共同で解決し、より良いものを生み出す積み上げ型イノベーションを継続していただきたい。それが、イノベーション創生センターを本当に存在意義のあるものにしていくだろうと思います。

大企業、中小企業、それぞれ抱えている問題は違います。異なる課題にうまく対応して、企業との施設の共用が進めば、バラエティーに富んだイノベーションが可能になると思います。困ったことがあれば関西大学のイノベーション創生センターに行こうと、関西中の企業に思ってもらえたら、もう成功でしょうね。

池内 イノベーション創生センターも梅田キャンパスも10年、20年かけて成果を出していく事業です。「関西大学、面白いことを始めたな。一度足を運んでみよう」と思われるような拠点に育てていきたいと思っています。

インキュベーション機能はもちろん、ベンチャー促進機能も充実させる計画です。さらに梅田キャンパスにも、起業をめざす人を対象とした学びの場としての機能も持たせたいと考えています。



池内 啓三 (いけうち けいぞう)
1943年旧満州(中国東北部)生まれ。46年日本に引き揚げ、大阪府に住む。65年関西大学文学部新聞学科を卒業し、学校法人関西大学に奉職。92年評議員、96年総務局長、2000年理事。法人本部長、常務理事、関西大学幼稚園長を経て、08年学校法人関西大学専務理事。12年理事長に就任。

LEADERS NOW!

空手道は人生そのもの

世界大会での更なる飛躍を胸に

●文学部 4年次生
清水 希容さん

2020年東京五輪の追加種目として国際オリンピック委員会に提案された「空手道」。その大会組織委員会のヒアリングで伝統的な「形」の演武を披露した清水希容さんは、2014年ドイツで開催された世界選手権で初出場・初優勝の快挙を遂げ、続く全日本選手権では史上最年少で優勝。今年に入ってから、アジアシニア選手権、わかやま国体で優勝と、大躍進を続けている。清水さんの空手に懸ける想い、そして形の魅力とは——？

「イヤァー——ッ！」静まり返った凱風館の練習場に、凛とした声が響き渡る。気合の主は、昨年、世界空手道選手権大会女子形に日本代表として臨み、見事、金メダルを手にした清水さん。最高峰の戦いに勝利した感想を尋ねると「正直まだ実感は湧いていませんが、これからもっと上を目指して、自分の求めているものを磨いていきたいです」と目を輝かせた。

空手を始めたのは小学校3年生の時。兄について道場見学に行ったのがきっかけだ。所属する糸東流は、スピードと切れ味を重視する流派。空手の基本は形と組手であり、清水さんは形を究めたいと稽古に励んだ。形の演武は種類が多く、動きや順序が定められているが、同じ形を打つにしても、鍛錬を積み重ねれば味や良さが見え、深みが増す。

清水 希容 —しみず きょう
■1993年大阪府生まれ。東大阪大学敬愛高等学校卒。文学部4年次生。体育会空手道部所属。9歳で糸東流養秀館本部道場に入門し、形競技で活躍を続ける。第22回世界空手道選手権大会に続き、第42回全日本空手道選手権大会、第13回アジアシニア空手道選手権大会で優勝するなど、数々の大会でメダルを獲得。



いくらでも探求できる限界の無さが魅力だという。「形は“動く芸術”であり、見せるもの。決まった形を打っても、その人の性格すべてが現れるんです。よく、私の個性は思い切りの良さだと言われるので、表現の中にそういう私らしさを見ていただき、何か響くものがあたらうれいですね」。

そんな清水さんの一日は、練習に始まり練習で終わる。ほとんどの時間を道場か大学の練習場で過ごしているが、それでも時間は足りない。国際大会は形の数が多いため、練習量も通し稽古も更に増える。緩急の付け方や呼吸法、体重の乗せ方などの繊細な部分は日本人特有のもの。そこを伸ばし“心・技・体”を一致させるために、必死に練習しているという。「せっかく空手道部の仲間がご飯に誘ってくれても行く時間がなくて。でも皆、仲が良く、いつも応援してくれるのでありがたいです」。時間に追われつつもわずかな空き時間を見つけ、星を見たり空の写真を撮ったりと自然観賞を楽しむのが唯一のリフレッシュ法だ。

今は、来年の世界大会2連覇にすべてを懸けている。「2020年の東京オリンピック開催が話題に上るようになって以来、他国のレベルが上がってきたと感じます。怖いけれど、絶対に負けない」。元々、清水さんが世界大会を目指すようになったのは、2012年に優勝した糸東流の先輩、宇佐美里香さんの演武を目にしたから。「世界一に懸けてきた強い想いを感じ、形はこんなにも経験を表現できるものなんだと感動しました」。宇佐美選手のような表現ができるよう、清水さんは目の前の大会に向けて、着実に準備を重ねる。「世界大会の先にオリンピックがあり、もしその時にチャンスをいただけたら全力を尽くしたい。オリンピックを通して子供達に夢を与えられたら良いなと思っていますし、オリンピックへの夢を広げられる選手になりたいです」。

清水さんにとって空手道とは？と問うと、「私の人生そのもの」と返ってきた。「空手道から多くの経験をさせてもらい、成長し、人間形成をしてきました。それは今までもこれからも変わりません。今後も空手道にしっかりと向き合いながら、進んでいきたいと思っています」。

目指すは“笑い”のエンターテイナー

脈々と受け継がれる人情喜劇

●松竹新喜劇 俳優
藤山 扇治郎さん —文学部 2009年卒業—

喜劇役者・藤山扇治郎さんは、昭和の上方喜劇界を代表する役者・藤山寛美さんを祖父に、人気女優の藤山直美さんを伯母に持つ。さぞプレッシャーを感じるだろうと思いきや、「祖父は私が3歳の時に亡くなったので、ほとんど映像でしか知らないんです。もう、神様が歴史上の人物のような存在なので気負いはないですよ」とちゃめっ気たっぷりにほほ笑む。

藤山 扇治郎 —ふじやま せんじろう
■1987年京都市生まれ。2009年関西大学文学部卒。10年に上京し、劇団青年座研究所に入所。12年より青年座映画放送株式会社に所属。13年松竹新喜劇へ入団。父は小唄白扇流の家元、祖父は喜劇王と称された藤山寛美、伯母は藤山直美。幼少期より日舞や小唄に接し、舞台上で名子役ぶりを発揮。テレビドラマ等にも多数出演。

26歳で松竹新喜劇に入団し、祖父・藤山寛美さんが阿呆役として確固たる地位を築いた『お祭り提灯』の丁稚役でデビューした扇治郎さん。翌年には新橋演舞場での『朗らかな嘘』で主演を勤め、場内の爆笑を誘った注目の若手喜劇役者だ。

扇治郎さんが初舞台を踏んだのは、小学校1年生の時。東京・歌舞伎座で『怪談乳房覆』に出演し、以来、高校1年生まで子役として活躍した。大学への進学は、担任の先生から勧められたという。多面的な能力、意欲・熱意や個性を積極的に評価されるAO入試が関大にあるからだ。「自分がしてきたことを評価してもらえればいい」と思い、受験を決めました。偶然にも面接官が大の新喜劇好きだったことで緊張は解け、子役時代の活動についてや将来は芝居をしたいという夢を語って合格を果たした。

大学での4年間は、友達に囲まれて思い切り自由を満喫した。また、奇遇なことは重なり、所属したゼミの大島薫教授も新喜劇のファンだった。「祖父の舞台をリアルタイムでご存知だったので、貴重な話をたくさん伺うことができました。祖父がいつまでも皆様の心に残っていることに、改めて感動しましたね。先生は私に新喜劇の舞台に立つよう勧め続けてくださったんですが、松竹新喜劇は“おばちゃんのみかん”とあめちゃんを持って観に行く”というイメージが強く、当時は魅かれなかったんです」。



新劇や“普通の”芝居を目指し、卒業後は青年座へ入るために上京。知り合いもいない中で初めての一人暮らしを経験した。その心細さを癒してくれたのが、何気なく持って来た祖父のDVD。「新喜劇の芝居は面白いだけじゃない。今の時代では希薄な、人とのつながりや人情が最も大切に扱われている！」そう気付いた時、急にその存在が大きくなった。「振り返ってみると、不思議ではないんです。私が新喜劇に入ることは元々決まっていたのかな、と。流れに乗るかのようになつた扇治郎さんの目標はやはり寛美さんであり、子役時代に同じ舞台に立たせて貰った十八世中村勘三郎さん(当時の勘九郎さん)だと言う。「お二人に共通するのは真のエンターテイナーであるという点。お客様を引きつけ楽しませる、その溢れるパワーに圧倒されるのです」。

来年元旦からは京都・四条南座での『初笑い 松竹新喜劇 新春お年玉公演』に出演予定。藤山寛美二十快笑の一つ『浪花の夢 宝の入船』では、石職人・堅田の源造役を担う。「祖父の芝居を継承すると考えると大層ですが、同じお役を演じさせていただけると、また、祖父と共に芝居をされてきた大先輩方に直接教えてもらえることが、本当に嬉しいです。まだまだ祖父の足元にも及びませんが、時々祖母が私の舞台を観て嬉しそうにほほ笑む、その瞬間が何よりも幸せです」。寛美さんの当り役を次々と演じる扇治郎さんから、ますます目が離せない。



■研究最前線

情報法コンプライアンスと内部統制の研究

「組織と経営」のあり方を、
情報法・企業法の視点から探求

国際的に競争力のある法制度と企業経営の確立に向けて

●社会安全学部

高野 一彦 教授

情報通信技術(ICT)の発展に伴い、ビッグデータと個人情報保護の問題、クラウドコンピューティングと越境データ問題など、現行法では対応が困難なさまざまな問題が顕在化している。わが国の情報法は、このような社会的課題への対応と国際的整合を目的に大きく変化しようとしており、企業における情報法コンプライアンスへの取組は、今や経営上の最重要課題の一つと言っても過言ではない。高野一彦教授は新しい情報法制への提言を行うとともに、企業における新たなコンプライアンス体制を探求している。



- ▲高野教授の主な著書・共著
- 「情報法コンプライアンスと内部統制 第2版」(ファーストプレス、2008年)
 - 堀部政男編著「プライバシー・個人情報保護の新課題」(商事法務、2010年)
 - 「内部統制時代の情報管理とコンプライアンス教育」(九天社、2006年)
 - 関西大学社会安全学部編「リスク管理のための社会安全学」(ミネルヴァ書房、2015年)
 - 関西大学社会安全学部編「防災・減災のための社会安全学」(ミネルヴァ書房、2014年)
 - 堀部政男編著「インターネット社会と法 第2版」(新世社、2006年) など



■わが国における情報法の課題とは

—現在のわが国のプライバシー・個人情報保護法制にはどのような課題がありますか？

政府は2013年に「世界最先端IT 国家創造宣言」を閣議決定しました。この宣言では、「ビッグデータ活用による新事業・新サービス創出の促進」をわが国の成長戦略の主要施策として示していますが、そのためにプライバシー・個人情報保護の新たな法制度を定立することなどが重要であると言っています。従来、新たな法規制は産業振興の足かせになると言われていたため、意外な感じがしますね。これには2つの理由があります。

第一は、個人データの国際的な移転制限の問題です。1995年のEU(欧州連合)データ保護指令において、わが国は「十分なレベルの保護」を施している第三国として評価されていません。従ってEU加盟国や、EUから十分性を承認されたカナダ・スイスなどから、わが国への個人データの移転が原則として禁止されています。このまま

世界から個人データが集まらない状態では、わが国はビッグデータを通じた新事業を創出することはできません。

第二は、ICTの発展に伴って顕在化したさまざまな課題への対応の問題です。例えば2013年には鉄道会社がICカードの乗降履歴を他社に売却したことで社会的非難を浴びました。また2014年には通信教育会社の顧客情報が流出した事件がありました。鉄道会社の事案では売却行為が違法かどうか学会でも議論が分かれた。また通信教育会社の事件では流出した情報を流通させていた名簿屋が規制の対象外であることが問題になりました。このように現行法では対応できないさまざまな事案が出てきており、新たな法制度の定立が必要だと言われ出したのです。

このような過渡期の今、多くの企業は膨大な個人データを保有しながら、適法性判断が難しいためビッグデータへの利活用を躊躇しています。前述の政府の成長戦略を達成するためには、国際的に整合が取れたルールを定立するとともに、企業がデータ利用時に適法性を判断できる基準と、それを担保する制度の定立が欠かせない要件なのです。

■企業のコンプライアンスの課題

—個人情報の取扱いについてわが国の企業はどのような問題がありますか？

企業間の取組状況の差が極めて大きいことが問題です。これは企業体力や事業形態の問題もありますが、法律上の問題もあると思います。

第一は、小規模事業者への配慮の問題です。国際的に見ればデータ保護に関するルールが最も有効に機能してほしいのは小規模なインターネットビジネスのような業態です。しかし、現行の会社法や金融商品取引法では、大企業や上場企業などの経営者に対して「内部統制」の構築・報告の義務が規定されていますが、小規模事業者には実質的に法律上の義務がかかっていません。

第二は、抑止効果の問題です。毎年5000件を超える企業の個人情報流出事件が報告されていますが、現行個人情報保護法にお

ける主務大臣の「勧告」「命令」といった権限の行使がここ数年で1件と極めて少なく、抑止機能が十分に効果を発揮していません。また、過去のプライバシー侵害訴訟において認められた損害賠償の額は極めて低く、1人当たり数千～数万円です。高額な賠償額が抑止力として機能している名誉毀損事件と比較すると、プライバシー侵害訴訟の抑止効果は高いとは言いがたいでしょう。

なお、2015年9月に成立した改正個人情報保護法は、それまで5000件以上の個人データを保有する事業者のみ安全管理義務を課していたものを、保有件数の要件を無くし、小規模事業者にも安全管理を義務付けました。また、2016年1月に新設される個人情報保護委員会に立入調査権を含む強力な執行権限を与えるなど、一定の改善がなされています。

■長期的視座でコンプライアンス部門の充実を

—コンプライアンス研究者の立場から企業にアドバイスをお願いします。

「カルチャー・オブ・プライバシー」と言われるように、プライバシーはその国の文化により微妙に概念が違い、法制度も違います。しかし、情報は国境を越えて流通するため、もはや自国の法律を遵守するだけでは十分とは言えず、グローバルなデータ・コンプライアンスの仕組みが必要です。欧米諸国の大企業の多くは既に、グループ横断的にデータ・コンプライアンスを主管する責任者と専門部署を設置し、長期的な視座で専門知識を持った社員を育成しています。日本でもこのような専門組織によりコンプライアンス・プログラムのPDCAサイクルを運用し、スパイラルアップさせていくことが必要でしょう。

一方、わが国においては2015年に公表された「コーポレートガバナンス・コード」などが収益性の向上を求めており、上場企業はROE(自己資本利益率)重視の経営にシフトしつつあるように思います。私は経営者の方々とお話をすることが多いのですが、一様に「これからはROEだ」という言葉を聞きます。ROE偏重の経営は近視眼的に結果を求めることにつながる恐れがあると危惧し

ています。例えば、ある企業は今年、コンプライアンス部門の社員を80人から30人に削減し、収益部門に転属させました。

コンプライアンス部門の充実と専門家の養成は、時間とコストがかかりますから長期的な視座での取組が必要です。今こそ収益性と持続可能性(サステナビリティ)のバランスに配慮した経営を行い、従業員が「長くこの会社で働きたい」と思える会社にするべきではないかと思います。

■ビッグデータ時代の法と企業のあり方を提言

—研究を通じて、社会に働きかける活動もされています。

情報法研究に関しては、恩師である堀部政男先生と研究仲間「堀部政男情報法研究会」を立ち上げ、4年間で9回の公開シンポジウムを行いました。このシンポジウムは、内閣官房・経済産業省・総務省・厚生労働省など多数の立法担当官が参加しており、研究会の活動は、個人情報保護法やマイナンバー法の立法に一定の貢献ができたと思います。



コンプライアンス研究に関しては、日本経営倫理学会傘下の経営倫理実践研究センター(BERC)で上席研究員を兼務しており、私が主宰する研究会に参加している約50社の大手企業の皆さんと、あるべきコンプライアンス体制を探求してきました。こちらは企業活動にかかわる法分野を広く扱い、外国公務員贈賄、ハラスメント、消費者保護、危機管理など最新の実務的な問題も取り上げています。

—今後の抱負をお願いします。

今後、ビッグデータによるイノベーションを通じた成長戦略が進展するためには、2016年1月に新設される個人情報保護委員会が有効に機能するかどうかにかかっていると思います。

私は2011年にカナダを訪問し、当時オンタリオ州の情報・プライバシー・コミッショナー(IPC)であったアン・カブキアン博士や州内の事業者と議論を行いました。IPCの評判は極めて良かったです。IPCによる企業へのコンサルテーションと適切な監視・執行は、オンタリオ州における事業者のプライバシー保護意識を高めるとともに、個人データの利活用促進にも役立っていることを実感しました。

私は、コンプライアンス研究者の立場から、個人情報保護委員会の制度や運用に有益な提言を行い、また新制度に対応した企業のコンプライアンス体制のあるべき姿を提言したいと思います。この研究成果が、僥倖ながらわが国の成長戦略に少しでも貢献できれば研究者として本望です。

研究最前線

生体信号の非接触センシング技術の研究

心臓の活動や呼吸を非接触で測る

被験者負担を軽減。応用は日常から医療まで

システム理工学部
鈴木 哲 准教授

安全で使いやすい環境や道具、ミスが少なく効率の良い作業などを実現するために、私たちの身の回りのさまざまな場面で、人間工学の知見が生かされている。人間工学を専門とする鈴木哲准教授は、呼吸数、心拍数、血圧、心拍出量などのバイタルサインを体に触れず、測定できるシステムを開発している。計測していることを意識させないこのシステムは、医療・ヘルスケア分野だけでなく、幅広い分野での応用が期待される。

体表の微小な動きをとらえ、血圧を推定

「体に触れずに、心臓の活動や呼吸を計測する方法を開発されたそうですね。」

「触れずに、服の上からでも分かる」と言うと、怪しい研究だと思われそうですね。人の体は心臓の鼓動に伴って、その表面がわずかに動いています。この微小な動きをマイクロ波を用いてとらえることで、心臓の活動や呼吸活動をモニターする仕組みを考えました。マイクロ波は衣服などの遮蔽物も透過するので、服の上のようなある程度離れたところからでも計測することができます。

「具体的に、どのようなデータを集めるのですか？」

初めは、呼吸や心拍数を測れるデバイスを作りました。人がどれだけ緊張や不安などのストレスを感じているかは、心拍数の変動から解析することができます。このデバイスによって、電極などを体に着けずに、非接触でストレス状態をモニターすることに、

世界で初めて成功しました。また、高齢者介護施設で就寝中の入居者の呼吸をモニターし、睡眠時の無呼吸状態を検出することもできました。冬眠中の動物のクマやヤマネのモニターをした際は、日本動物園水族館協会から技術研究表彰をいただきました。

ただ、呼吸数や心拍数だけでは、治療にはあまり役に立たないので、もっと体の状態を把握するために重要な指標を計測できるようにしようと、血圧、心拍出量の変化を推定できる仕組みを考えました。心拍出量というのは、心臓が送り出す血液の量のことです。心拍出量の測定については、体表面の動きからではなく、心臓の拡張・収縮をモニターし、特に左心室の動きに関する情報を抽出し、駆出される血液量を推定しました。

「血圧や心拍出量を非接触で測るメリットは？」

一般的に血圧を測る時は、カフを腕などに巻いて圧迫して測りますね。高血圧の患者さんやお年寄りの中にはこれが負担になる方がいます。また、睡眠中に測ろうとしても圧迫で目が覚めてしまい、うまく測れません。病院で測ると血圧が高めに出してしまうのはよく知られています。だから、計測していることを意識させずに、計測することが望ましいのです。

心拍出量の場合は、通常、カテーテルを血管に挿入し、そこに機器を接続して測定しますから、患者さんの体に負担がかなり掛かります。非接触ならば、こうした問題を解決して、負担を感じさせずに連続的にモニターすることができます。

冬眠中のクマの生体情報をモニタリング

「このシステムはどのような応用が想定できますか？」

呼吸、心拍数、血圧の測定などは小さなセンサーを体のそばに置くだけで可能です。例えば、デスクワークなどで椅子に取り付けて、生体情報の変動をモニターし、ストレスや不快感が増していることが分かれば、仕事をサポートしたり、環境を良くする仕組みに利用できそうです。

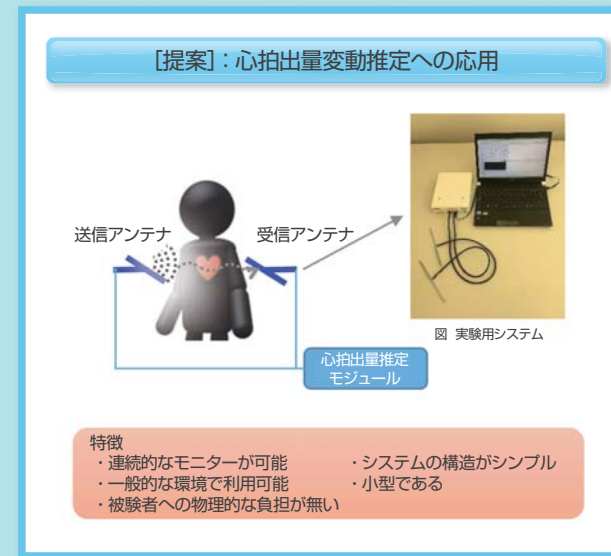
心拍出量の測定システムでは送信用と受信用の2つのアンテナを、体の近くに設置します。アンテナを衣服に縫い込んだり、貼り付けることもできるので、日常生活中心臓の状態をモニターできます。また、寝具などにうまく配置して、連続的にモニターするなど、医療・ヘルスケア分野への応用が期待できます。実際のところ、血圧、心拍出量の測定システムを発表してから、多くの企業より共同研究について問い合わせをいただいています。私は「せっかくの技術なので、皆さんと共有したい」という考え方で、いろいろな学外の方と一緒にやりたいと思っています。

「今後、この研究をどう発展させたいとお考えですか？」

企業の方とも協力して、信頼して使えるしっかりした製品に仕上げ、実際に利用していただきたい。それから、もっといろいろな生体情報を計測できるようにして、診断により役立つものにできるといいですね。

「ところで、なぜクマまでモニターしたのですか？」

前に勤めていた大学でのことです。上野動物園でクマが冬眠している様子を展示したいが、冬眠中に死んでしまわないか、冬眠中のクマの状態を調べる良い方法はないかと悩んでいる、という新聞記事を読んで、「この研究を応用すれば、冬眠中のクマをモニ



- 特徴
- ・連続的なモニターが可能
 - ・一般的な環境で利用可能
 - ・被験者への物理的な負担が無い
 - ・システムの構造がシンプル
 - ・小型である

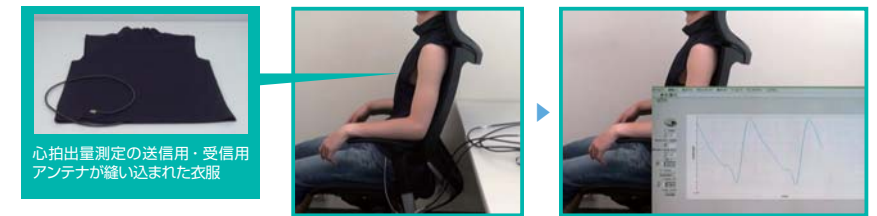
Non-contact Sensing



<マイクロ波を用いた心拍情報の検出>



<心拍出量変動推定の応用例：日常生活のモニター>



ターできるだろう。連絡してみてもどうか」と、当時の上司にあたる教授に言われて、電話したのが始まりです。そういう成り行きですから、「野生動物の生態観察など、専門ではないし、どうしよう」という思いもあったのですが、実際にかかわってみると、意外に面白かったのです。冬眠中は呼吸や心拍数が極端に少なくなることを初めて実証できましたし、私の専門は人間工学ですが、動物の行動を知ると「なるほど」と気付かされることがあって、現在の研究につながるヒントをたくさん得ることができました。

「こんなことができたら、面白い」の視点で攻める

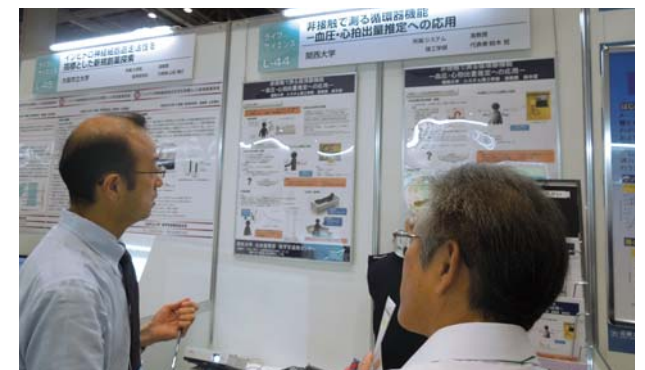
「マイクロ波を使った研究以外にも、興味のある研究テーマはありますか？」

実は元々、脳波について研究していました。人間工学の世界では、ヒューマンエラーをどうやって減らすかが重要な研究対象になっています。ヒューマンエラーが起こる要因には覚醒度が関係することから、脳波の研究をしていました。

覚醒度とは異なりますが、脳波を解析することで、何か行動を起こそうとした時に、失敗の兆候を検出できるという、これまた怪しいと言われそうな論文をまとめたことがあります。人間は何か行動する前に、頭の中ではこう動こうと計画をしています。その計画している時に出る脳波の波形に、行動の計画が良い時と悪い時で差が生じます。ということは、その脳波を読み取れば、動き出す前に失敗の可能性を指摘できるのではないかと考えたのです。

「着眼点が面白いですね。」

研究は「こんなことができたら、面白いのでは？」という視点から、自由に攻めて良いと思います。「触らずに測る」「クマをモニターする」など、少し訝しがられる研究も、専門家の意見を聞き、信号のノイズ処理に苦労しながらも成果を出せました。誰かがやらないと、知見は広がらないし、私たちが何か形にすることができれば、それに反応して、新たな提案をする企業や研究者も出てきます。研究を進めると、いろいろな方からさまざまな視点の意見や課題をいただくことができ、人と人のつながりのおかげで私も仕事ができているのだと実感します。



▲大学、ベンチャー企業等が研究開発の成果を展示・発表する「イノベーション・ジャパン2015」で企業関係者へ研究内容について説明する鈴木准教授



- 特徴
- ・連続的な血圧変動のモニターが可能
 - ・小型である
 - ・一般的な環境で利用可能
 - ・被験者への物理的な負担が無い

Topics ■トピックス [学内情報]

“ISLAM and INTERNATIONAL SOCIETY”

●国際シンポジウム 「イスラムと国際社会」を開催 — 関大で深めるイスラム・アラブ諸国への正しい理解 —

関西大学では、9月14日～16日の3日間、千里山キャンパス尚文館において、国際シンポジウム「イスラムと国際社会」を開催した。

2011年初頭より大規模な民主化運動「アラブの春」が発生した中東及び北アフリカ諸国では、各国で政治的に不安定な状態が続く中、2014年6月にIslamic State (IS)の成立が一方向的に宣言された。このような政治的な動きは日本にも影響を及ぼしており、2015年の邦人人質の拘束及び殺害といった事態から、日本がISの標的国に含まれていることも明確になった。

こうした状況を踏まえ本学は、「日本人に少しでも正確なイスラム像を提供し、現在の世界における日本の立場を明確にするためには、アラブと日本の専門家が議論する場を設定することが大学の使命である」と考え、今回のシンポジウムを企画。イスラム・アラブ諸国についての正しい理解を深めることを目的に、日本国内やアラブ諸国の第一線で活躍する研究者らを招いて、さまざまな観点からの報告やパネルディスカッションを行った。

各日のテーマは「イスラム戦争法及び国際法から見たIslamic State」「アラブの春は何をもたらしたか…とりわけ女性の地位に現れた変化」「世界遺産及び文化遺産の保護」。アラブ首長国連邦(UAE)・ザイード大学のアフメド・アル・ダウーディ氏による「Islamic Stateとは—テロリストのパラダイム」をはじめとする数々の報告に、来場者は熱心に耳を傾けた。



▲(左) 葛原力三法学部長による開会の辞 (右) 「エジプト遺跡の保存への政治状況の変化の影響」について語る吹田浩文学部教授



パネルディスカッションの様子

●人間健康研究科博士課程後期課程を開設

健康・スポーツ研究を通じて、人間社会の健康と福祉に寄与

人間健康研究科は、2016年4月、新たに博士課程後期課程を開設する。人間健康学部と人間健康研究科は、地域貢献型の学部・研究科として設置され、堺市や周辺自治体との密接な連携のもとに、専門教育ならびに各種の支援・連携事業を展開する新たな大学のあり方を提案し、実績を上げてきた。博士課程後期課程の開設は、学部と修士課程(平成28年4月から博士課程前期課程)の地域貢献の実践を踏まえ、その性格を有しながら、より高度な研究教育を行うことが目的。体育関係を軸に、体育学や健康科学、教育学、社会学、社会福祉学、文化人類学等の研究領域を連携させ、学際的かつ実践的な教育と研究を行うことで、学社連携の教育や、高齢者や障害者等も参加できるアダプテッド・スポーツ、市民活動や地域福祉の活性化等に寄与する人材の育成に取り組んでいく。

文部科学省

平成27年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 本学の研究プロジェクトが採択

文部科学省が重点的かつ総合的に補助を行う平成27年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、本学より申請したプロジェクト「3次元ナノ・マイクロ構造の創成とバイオメテックス・医療への応用」が採択された。本事業は、大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を生かした研究を実施するために、国がその研究基盤の形成を支援するもの。募集は「研究拠点を形成する研究」「大学の特色を活かした研究」「地域に根差した研究」の3つの研究観点で行われ、本学からはこれまでに22のプロジェクトが「研究拠点を形成する研究」として選定されている。

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されたプロジェクト

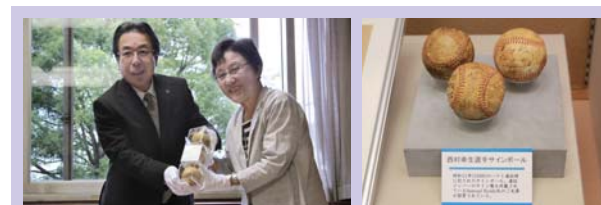
〈研究期間〉……………平成27年度～31年度(5年間)
 〈研究組織名〉……………3次元ナノ・マイクロユニット
 〈研究代表者〉……………システム理工学部 教授 青柳誠司
 〈研究プロジェクト名〉……3次元ナノ・マイクロ構造の創成とバイオメテックス・医療への応用



○年史資料展示室 企画展を開催

関西大学野球部100年

100年の軌跡 新時代の幕開け ～関大野球部100年の軌跡と「79年目の奇跡」～



(写真左) 楠見学長にサインボールを提供するジョイスさん(右) (写真右) 79年前のハワイ遠征時に少年に贈られたサインボール

関西大学では、10月1日～2016年3月末日まで、千里山キャンパス・簡文館において、企画展「100年の軌跡 新時代の幕開け 関西大学野球部100年」を開催している。

体育会野球部は、1915(大正4)年に創部され、2015年で創部100年の節目を迎えた。これを祝し、今年1月には大学関係者、野球関係者、野球部OB及び現役部員ら約550人が集い、記念式典が執り行われた。

今回の企画展では、野球部100年の歴史を、創部、海外遠征、名選手を輩出した黄金時代、プロ野球での活躍など、さまざまな展示品とトピックを通じて振り返る。

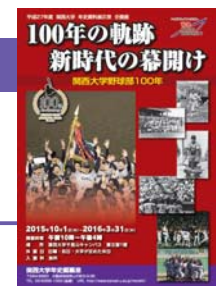
また、10月5日には本学OBで戦前のプロ野球・大阪タイガースで活躍し、野球殿堂入りも果たした故・西村幸生氏のご子孫、ジョイス津野田幸子氏が、79年前のハワイ遠征時に関西大学野球部のメンバーが現地の少年に贈ったサインボール3個を持って来学。

会場には、そのサインボールをはじめ、元阪急ブレーブス監督の上田利治氏が学生時代に使用していたキャッチャーミットや、阪急ブレーブスで活躍した山口高志氏のユニフォーム等が展示されているほか、野球部の新・旧ユニフォームも見ることができる。

※日曜・祝日、大学が定めた休日は休館。詳細は関西大学年史編集室まで(06-6368-1062)



■79年目の奇跡とは
 西村幸生氏をはじめとする関大野球部は、1936年のハワイ遠征で、お世話になったバットボーイにお礼のサインボールとサイン帳を贈った。2002年、このサイン帳のコピーが突然ハワイから関大に届いた。その後、2015年1月の記念式典で、サイン帳の存在を知ったジョイス津野田幸子さんがハワイで尋ね人広告を出したところ、医師であるサミュエル・コイデ博士が名乗り出て、79年間大切に保管していた西村氏らのサイン入りボールを幸子さんに届け、関大野球部の当時の活躍などを伝えた。



いっさいがっさい 一祭合祭

＜第38回関西大学統一学園祭を開催＞

2015年度の関西大学統一学園祭が、11月1日から4日まで、千里山キャンパスで開催された。今年のテーマは「一祭合祭」。これは「一切合切」という言葉から創ったもので、学園祭を約3万人の関大生全員が団結して創り上げ、関大生の魅力を発信できる場、関大生の力を感じてもらえる場にしたという思いが込められたもの。

今年も、多くのサークル及びゼミによる研究発表や模擬店、フリーマーケットをはじめ、ステージ企画、講演会等、さまざまなイベントや催しでにぎわいを見せたほか、11月1日にはダレノガレ明美さんのトークショー、2日にはダイアン、笑い飯、和牛によるお笑いイベント、3日にはコブクロを迎えてライブを開催し、連日、会場は大いに盛り上がった。さらに、統一企画構成委員会が運営する3大イベント「K.U.ROCK FEVER」「Kandai Dance Festival」「LAUGH & PEACEお笑い王決定戦」が今年も観客を巻き込んで盛大に行われた。また、4日は化学生命工学部 河原秀久教授による講演会、夕方からは、悠久の庭で「後夜祭」が開催され、感動的なフィナーレを迎えた。

▲統一学園祭は約700人の学園祭実行委員の学生たちが運営した

関西大学日本・EU 研究センター設立 10周年

◎第5回 Japan Weekを開催



▲名誉博士号贈呈式が挙行されたルーヴェン大学本館

関西大学日本・EU研究センターでは、毎年、ベルギー・ルーヴェン大学において国際シンポジウムを実施すると共に、隔年で「Japan Week」を開催している。本年度は、日本・EU研究センターの設立10周年記念でもあり、11月4日から6日の3日間にわたり、セレモニーや学生交流イベント、国際シンポジウム等のプログラムが実施された。

初日は、元欧州理事会議長ヘルマン・ファン・ロンバイ氏への名誉博士号贈呈式を挙行し、俳人でもあるロンバイ氏による基調講演や「Haikai Literature and Western Adaptations」と題した国際シンポジウムを開催。2日目には、本センター設立と「Japan Week」の運営に尽力された、本学名誉博士でルーヴェン大学教授のウィリー・F・ヴァンドウワラ氏に対する学長表彰を行った。



文学部のローベルト・F・ウィットカンブ教授による司会

また、Japan Weekプレゼンテーション・EU

また、Japan Weekプレゼンテーション・EU



オープニングセレモニーでの楠見晴重学長の挨拶 ロンバイ氏への名誉博士号贈呈式



ワークショップとして実施された、本学およびルーヴェン大学の学生らによる俳句コンテスト研究報告やポスターセッションでは、活発な質疑や議論が展開され、日本・EU間における貴重な学術交流の機会となった。

■関西大学日本・EU研究センター
関西大学創立120周年記念事業の一環として、ベルギーのルーヴェン・カトリック大学(現ルーヴェン大学)内に「関西大学日本・EU研究センター」を2006年11月4日に設置。関西大学日本・EU研究センターは、日本とEU相互の研究交流を促進し、そのための共同研究等を行うための学術研究拠点となるとともに、EUやベルギーの市民や学生に対し、広く日本文化を紹介することを事業目的としている。

◎一般財団法人林原美術館と連携協定を締結

超高精細デジタル化を用い、芸術資料の鑑賞機会を創成 —地域活性化や地域文化の再評価に関する研究への発展を見据えて—



▲調印文書を取り交す楠見晴重学長(右)と長瀬玲二林原美術館代表理事

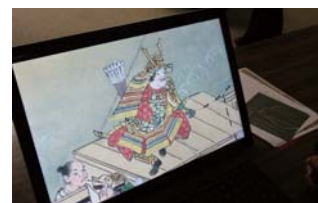
関西大学と一般財団法人林原美術館は、相互的人的・知的資源の活用により研究・教育を通じて協力し、社会に寄与することを目的に連携協定を締結。8月26日に千里山キャンパスにおいて、調印式を行った。

林原美術館は1964年に開館した岡山市最古の美術館。岡山藩主池田家旧蔵の調度品をはじめ、刀剣・甲冑・絵画・書跡・能装束・

螺鈿・蒔絵・陶磁器など、国宝3件・重要文化財26件を含む約1万1千件の貴重なコレクションを収蔵している。

一方、関西大学では、「地域文化・芸術資源可視化(VOLCANO)研究」を目的とする研究プロジェクトユニットが、最新のIT技術(超高精細デジタル画像化)を用いることで、一般の人にも分かりやすい新たな地域文化、芸術資源の鑑賞機会を創成している。

今回この技術を用いることで、同美術館の貴重な資料『平家物語絵巻』を約40倍の高精細画像として拡大し、これまで判別不可能だった画像細部を鮮明に可視化し、新たな知見を得ることができた。今後も本取り組みを貴重な資料や美術品の研究に応用し、同美術館の魅力ある新しい資料展示へつなげることに期待が寄せられる。



▲「平家物語絵巻」の画像を約40倍拡大し超高精細デジタル画像化技術の特色を説明

◎関西大学ビジネスプラン・コンペティション開催 企画力を競い、起業・事業化を目指せ!

KUBIC2015 ~「想像」から「創造」へ10周年のKUBIC~



商学部では10月3日、全国の高校生・大学生などを対象としたビジネスプラン・コンペティション「KUBIC2015~『想像』から『創造』へ10周年のKUBIC~」を千里山キャンパスにおいて開催した。

KUBIC(Kansai University Biz Plan Competition)は、関西大学の教育理念「学の実化」と、商学部の教育理念「品格ある柔軟なビジネスリーダーの育成」を実現するために、商学部創設100周年記念事業として2006年に始まり、今年で10周年。これからの社会でますます必要とされるアントレプレナーシップ(起業家精神と行動)の養成を考量し、その実践的教育の場として、ビジネスプランの創造を全国に呼び掛け募集している。

当日は、合計1742件の応募の中から1次・2次審査を勝ち上がった計10組が、熱のこもったプレゼンテーションを披露。厳

正な審査の結果、高校・高等専門学校の部では、大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校・久保岡由衣さんの「Room for Children—新幹線も思い出の1つに—」、大学・大学院・一般の部では、関西大学商学部・teamsの「“unite”~マイレージという発想~」が優勝に輝いた。

このコンペティションは「学生の力」の発揮をスローガンに掲げ、運営自体も商学部の学生が担っている。過去の実行委員や入賞者の中には、卒業後に起業したり社内ベンチャーを立ち上げたりと各方面で活躍する姿も見られ、今後もKUBIC等を通じ、新しいビジネスを創造してリーダーシップを発揮できる次世代の育成や起業家精神の啓発に力を注いでいく。



プレゼンテーションの様子



表彰式の様子

関西大学協賛の「大阪マラソン2015」開催 約700人の関大生が大活躍



10月25日、今年で5回目となる「大阪マラソン2015」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)が開催された。沿道には132万人もの人々が詰め掛け、応募により選出された約3万2000人のランナーに熱いエールを送った。

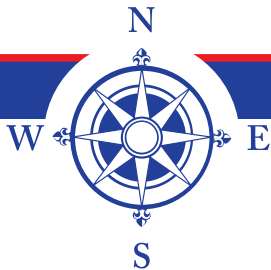
関西大学は1回目から協賛団体として大会運営に協力し、地元「大阪」を盛り上げるためにさまざまな形で貢献してきた。今大会も、ランナー20人をはじめ、給水ボランティア415人、チャリティ募金ボランティア35人、語学対応ボランティア33人、清掃ボランティア20人など、総勢約700人の学生と教職員が参加。沿道では「ランナー盛り上げ隊!」として、応援団、チャリーディング同好会CLAIRS、関西大学ダブルダッチ会mix package、Jazz研究会、同好会吹奏楽サークルbisなどが大会に華を添えた。

また、23日~25日にインテックス大阪で「大阪マラソン EXPO2015」が開催され、23・24日には、展示エリアに関西大学ブースを出展。「スポーツ」「運動」を専門とする人間健康学部の小田伸午教授、河端隆志教授と学生らが体験イベント「ランニングフォームクリニック」を行い、実際にトレッドミルを使って、走りのメカニズムや無駄のない走行フォームなどを徹

底解説した。また、同時に「応援横断幕寄せ書き」イベントも実施し、マラソン当日には、その横断幕を沿道に掲げエールを送った。



1. 「ランナー盛り上げ隊!」の応援団
2. 本学オリジナルウェアを着た学生ランナー
3. 給水ボランティア
4. 「大阪マラソン EXPO2015」でのランニングレッスン

KANDAI
■関大ニュース

NEWS

関西大学北陽高等学校校友の又吉直樹さんが小説『火花』で芥川賞受賞！

7月16日、関西大学北陽高等学校校友である又吉直樹さんの小説『火花』(文藝春秋)が、第153回芥川賞(日本文芸振興会主催)に選ばれた。現在、単行本の累計発行部数は200万部を軽く超え、芥川賞受賞作の単行本最多部数を更新している。

又吉さんは、北陽高等学校在学中はサッカー部に所属。大阪府代表としてインターハイへの出場経験もあり、受賞後には当時の監督・野々村征武氏と電話で喜びを分かち合った。また、サッカー部の後輩のために、新調したユニフォーム50着を寄贈。ユニフォームは、10月の第94回全国高校サッカー選手権大阪予選で披露された。



©吉本興業

又吉 直樹—またよし なおき
■お笑い芸人。1980年寝屋川市生まれ。99年北陽高等学校(現・関西大学北陽高等学校)卒。2003年に綾部祐とピースを結成。著書に『第2図書係補佐』(幻冬舎よしもと文庫)、『東京百景』(ヨシモトブックス)などがある。



◀又吉さんが関西大学北陽高等学校サッカー部に寄贈したホーム、アウェー2種のユニフォーム

全日本学生賞典障害飛越競技大会で体育会馬術部の松水優斗さんが優勝

10月31日から11月4日、東京・世田谷区のJRA 日本中央競馬会馬事公苑で開催された第65回全日本学生賞典障害飛越競技大会、第58回全日本学生賞典馬場馬術競技大会、同総合馬術競技大会において、体育会馬術部の松水優斗さん(文1)とパートナーの名馬バーデン・バーデン号が障害飛越個人の部で見事、優勝を遂げた。また、史上初の全国5連覇がかかっていた障害飛越団体は、僅差で優勝を逃し、惜しくも2位に。総合馬術団体は7位、三種目総合は4位と、それぞれ健闘を見せた。

(写真提供: 関大スポーツ編集局)



関西大学北陽高等学校90周年記念式典・祝賀会举行



(左) 同窓会会長・岡田彰布氏による挨拶 (右) 創作ダンス部の演舞

今年、関西大学北陽高等学校は創立90周年を迎え、10月31日、新阪急ホテルにおいて記念式典が執り行われた。第1部では、同窓会会長の岡田彰布氏による挨拶や祝辞に続き、校友である上智大学法科大学院の原強教授が記念講演を行った。また、校友の月亭八光さんと又吉直樹さんからビデオレターも届けられた。第2部では、同じく校友の桂春蝶氏による司会進行の中、ジャズバンド部がジャズセッション、創作ダンス部が演舞を披露。来賓、卒業生、保護者、生徒、教職員ら約250人が参加し、盛大な会となった。

体育会なぎなた部が大活躍！

9月27日から29日、和歌山県九度山文化スポーツセンターで行われた第70回国民体育大会(紀の国わかやま国体)のなぎなた競技成年女子試合で、体育会なぎなた部の林田智笑さん(人3)が準優勝し、メダルを獲得した。

また、8月9日に山口県立下関武道館で行われた第54回全日本学生なぎなた選手権大会では、試合競技(個人の部)で林田さんが2位に入賞。試合競技(団体の部)で本学が3位、公開競技(男子団体の部)で優勝、公開競技(男子個人の部)で石橋立成さん(政策1)が3位入賞を果たした。



林田さんは後列向かって左端(写真提供: 体育会なぎなた部)

リクルート「進学ブランド力調査2015」で関西エリアの『志願したい大学』第1位に

リクルート進学総研が実施した「進学ブランド力調査2015」高校生に聞いた大学ブランドランキングにおいて、本学が関西エリアの『志願したい大学ランキング』『知っている大学ランキング』共に第1位となった。この調査は、関東・東海・関西エリアの高校に通う2016年3月卒業予定者7万4000人を対象に実施されたもの。関西エリアで本学は、8年連続して『志願したい大学』第1位を獲得した。